



# 今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進による物流現場改善は、大きなテーマです。そのためには、現場力の向上やITの導入に力を入れていく必要があります。ただし、ヤミコモに多額の投資を行っても大きな成果は得られません。ここでは物流業務改革に向け、知恵と工夫およびITで物流現場の課題を改善していった事例について紹介します。

## 知恵と工夫による事例

### 「荷姿確認カード」の作成

#### 課題

配送前、配送後の確認が書類中心となり、実際に何をどう確認したかが曖昧になっていた。そのため、破損や数量違いが起きると、「言った、言わない」の水掛け論に発展しやすかった。

#### 対策

出発前および到着時に、荷姿・数量・破損の3項目を「指差し・声出し」で確認。出発前は発荷主側担当者とドライバー、到着時は着荷主側担当者とドライバーの2者が署名する「厚紙カード」を使用し、書面管理ではなく「その場で合意」を記録することにした。

#### 効果

- ・確認結果を「合意済みの事実」として残すことで、責任所在が明確化された。
- ・「言った、言わない」に起因するトラブルや交渉コストを未然に防止できた。

#### 〈改善前〉

- 配送前・配送後の確認が書類中心となり、現場で「何を・どう確認したか」が不明確になっていた。
- その結果、破損や数量違いが発生した際に、事実確認ができずトラブルに発展しやすかった。

#### 〈改善後〉

指差し・復唱・署名を一体化した「荷姿確認カード」を作成。



- 「言った、言わない」のトラブルを未然に防止。
- 確認を重視する文化が荷主企業および運送会社間に定着。

**荷姿確認カード**

■ 荷姿確認 (指差し・復唱・署名)

① 荷姿  
 良  要注意 (傾き・潰れ・荷崩れ等)

② 数量  
 一致  不一致 ( )

③ 破損  
 無  有 ( )

【確認の言葉 (必ず声に出す)】  
この荷物は、荷姿【    】、数量【    】、破損【    】の状態です。こちらを先に引き渡します。引き受け合意します。

確認場所:  
日    時:

引き渡す側 (氏名):  
引き受ける側 (氏名):

## ITを活用する事例

### AI搭載センサーを貨物に装着

#### 課題

輸送中の荷崩れ・破損について、積み方・運転・路面状況・時間帯のどれが原因が特定できず、同様のトラブルが繰り返されていた。さらに、荷主企業・運送会社・ドライバー間で責任の押し付け合いが常態化していた。

#### 対策

衝撃・傾き・温度・位置情報を取得する「AI搭載センサー」を貨物に装着し、輸送中の状態を常時記録。AIによるデータ解析により、異常の発生地点・時刻・状況を自動で特定可能に。

#### 効果

- ・客観データにより破損原因と責任の所在を明確化。
- ・事前警告により、事故後対応型から事故予測型の輸送管理へ転換。

#### 〈改善前〉

- 荷崩れ・破損の原因 (積み方・運転・路面・時間帯) を特定できず、トラブルが再発。
- 荷主企業・運送会社・ドライバー間で責任の押し付け合いが常態化。

#### 〈改善後〉

貨物の状態などを把握できる「AI搭載センサー」を導入。



- 破損の原因が客観データで説明可能に。
- 「この条件では破損リスクが高い」と事前警告が可能に。



AI搭載センサーにより、輸送中の貨物の状態を常時把握。

鈴木 邦成 (すずきくにのり)

物流エコミスト、日本大学特任教授、博士(工学)(日本大学)、早稲田大学大学院修士課程修了、日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事、専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』(NTT出版)、『入門 物流(倉庫)作業の標準化』(日刊工業新聞社)。